

● アウトプットとアウトカムについて < JANPIA の評価指針より >

資金活用団体（JANPIA）の評価指針では、「アウトカム」と「アウトカム」を定量的・定性的に把握することが、社会的インパクト評価を実施するうえで重要と捉えています。「アウトカム」と「アウトプット」には、以下のような違いがあります。

アウトプット（結果）	事業の実施により生み出された「結果」
アウトカム（成果）	事業の実施によるアウトプットがもたらす「便益」や「変化」

アウトプットが、事業を実施した直接の結果、数字や記述で表される状態であるのに対し、アウトカムは、アウトプットが生じたことで、その因果の連鎖の結果、事業対象（受益者等）やその周囲にもたらされる便益や変化です。これらには知識・行動・態度・スキルなどの変化（短期あるいは直接アウトカム）から個人の行動変容、周囲・社会の変化（長期あるいは最終アウトカム）までが含まれます。

● インプットについて < JANPIA の評価指針より >

インプットとは、事業活動などを行うために使う資源（ヒト・モノ・カネ・情報）のことです。

● ロジック・モデルとは < JANPIA の評価指針より >

ロジック・モデルとは、事業設計の代表的ツールであり、事業のためのインプット、活動、アウトプット、アウトカムの関わりについて体系的に図式化するものです。ロジック・モデルでは「もし活動が行われれば、アウトプットが達成され、もしアウトプットが達成されれば、アウトカムが達成され、もしアウトカムが達成されれば、解決したい社会課題へ貢献するであろう」という論理上の因果関係の仮説を立てます。もちろん、現実はこのような直線的な関係が描ける場合は少ないですが、現実を事業設計上の観点から切り取り、仮説を立てて表現するのがロジック・モデルです。

